
物語の元凶

麻未夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

物語の元凶

【Nコード】

N1451P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

『私』が何の気無しに取った些細な行動が、とんでもない事態を引き起こしてしまった。だが、本当の元凶は別に存在していたのである。

――私が足を出したばかりに……。

私はそんな事を思いながら、視線の先の惨状からそつと目を逸らした。

事の始まりはこうだ。

友人との待ち合わせ場所に向かっていた私は、前方から聞こえてきた「ひったくり！」という叫び声に思わず立ち止まり、それから女性物のハンドバッグを片手に全速力でこちらへ駆けてくる男を確認するとサツと脇に退き、男が目の前を通過する寸前、さほど深く考えないままに片足をその男の前へと突き出してしまったのである。

男は豪快に転んだ。いや、飛んだと言っても良いだろう。

男は、おそらく何が起こったのか解らなかっただろうし、解った頃には地面に激突だ。

これで話が終われば、私は『ひったくり犯』を捕まえたヒーローだっただろう。だが、悪いことに、私に足をかけられ宙を舞ったその男は、持っていたハンドバッグから手を離してしまったのである。弾みがついて宙を舞ったハンドバックは、ちょうど傍を通りかかった自転車に乗った中年女性の顔面にストライク。

彼女もまた何が起こったか解らなかったのだろう。そして、解った頃には車道の真ん中で自転車ごと倒れ込んでいた。

そこで話が終われば、まだ良かった。いや、向こうのスーパーで卵の大安売りさえしていなかったら、ここで話は終わっていたに違いない。

だが、運悪く、その自転車のカゴには、中年女性がおそらく普段より大目に買い込んだのだろう卵が入っていたのである。

勢いよく倒れた自転車のカゴから、無惨にも3パックの卵が車道に投げ出される。

そこへ軽トラックがやってきたから大変だ。

トラックは、自転車と中年女性を辛くも避けたが、卵を避ける事は出来なかった。

普段ならどうという事もなかったかもしれない。だが、とつさにハンドルを切ったところで大量の卵を踏んでのスリップだ。

おそらく、このドライバーも何が起こったか解らなかっただろう。そして解った頃には近くの銀行にトラックに乗ったまま突入だ。

途端、警報が鳴り響いた。

たまたま近くをパトロール中だったのだろう一台のパトカーがサイレンを鳴り響かせながら急行してくる。そして、さほど時間をおかず、更に何台ものパトカーがサイレンを鳴らしながら列を為してやってくるのが解った。

無論、すぐにただの事故だと解って、パトカーは最初に来た一台を残して去っていき、代わりにやってきた救急車が怪我人を乗せて去っていく。

野次馬は消え、私もまた待ち合わせ場所へと向かった。早めに家を出ていたのが幸いし、まだ待ち合わせ時間には間に合いそうだった。

だが、時間ピッタリに到着した待ち合わせ場所で待てど暮らせど、友人はやってこない。一時間が経過したところで携帯からメールを送っても返事は来ない。

そしてそこから更に30分が過ぎて、私は待つのをやめて家に帰ることにした。

帰り道、銀行の前の割れたガラスの破片などは既に綺麗に撤去されており、車道にはばらまかれていた卵も綺麗に掃除されていて、あの惨状の痕跡は殆ど残ってはいなかった。

—— そういえば、『ひったくり犯』はどうなったんだろ。

一連の騒ぎですっかり忘れ果てていた事を今頃思い出して、

—— せっかくパトカーが来ていたんだから、突き出してあげれば良かった。

などと考えながらアパートの前に着いた私は、階段を上がってドアの前で鍵を取り出し、それを鍵穴に差し込んだ—— 瞬間、背後から男の手が延びてきて、手を鍵ごと強い力で掴まれた。

叫び声を上げようと開いた口は、すぐにやはり男の手で塞がれ、振り向くこともできない。

「……余計な事しやがって」
低い声に聞き覚えはない。だが『余計な事』と言われて思い当たることはただ一つ。

—— 『ひつたくり犯』だ！

男が掴んだ私の手ごと、強引に鍵を回した。ガチャリと音がして、鍵が開く。男は掴んでいた私の手を離し、だが私が抵抗する間もなく、すぐに目の前にナイフをちらつかせてくる。

その時だ。

「サプライズ……!!」

ボタンと勢いよくドアが開いたと同時にそんな声が響きわたり、私は気がつけば通路で一人、呆然と佇んでいる。

「……………あれ？」

目の前にいるのは、待ち合わせ相手だった友人とその他数名の友人達。

「誕生日おめでとう！」

「あ……………りかと……………」

とりあえず礼を言いながら、そういえば友人に合い鍵を渡していたことを頭の隅で思い出す。

そこでようやく我に返った私は、何の気配も感じない自分の背後を振り返った。だが、やはり男はいない。

「……………」

そして柵から身を乗り出して下を覗き込んだ私が見たものは、ナイフを自分の首に突き刺した状態で、地面に仰向けに転がっている

『ひつたくり犯』だった。

「どうしたの？そんなにビックリした？」

私の顔色の悪さをどう取ったのか、心配げにそんな事を尋ねてくる友人達。

——そもそも、待ち合わせの約束がなかったら、こんな事にはならなかったのよね……。

なんて事を思いつつ、私は「なんでもない」と首を振った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1451p/>

物語の元凶

2010年12月2日16時32分発行